

造園緑化工事の設計から施工、メンテナンスまで行う

～創業90年 職人型現場力を高める～



株式会社 岐阜造園

代表取締役社長

小栗 達弘氏

住 所：岐阜市茜部菱野4-79-1

T E L：058-272-4120

F A X：058-274-6207

U R L：<http://www.gifu-zohen.co.jp/>

事業内容：

公共施設・公園・ゴルフ場・リゾート施設等の造成・造園緑化工事、屋上・壁面緑化やビオトープ等の自然共生緑化工事、ショッピングセンター・工場等の森づくりの指導・監督、個人住宅の庭園・外構工事、建売分譲住宅の企画・販売、太陽光発電システムの販売・設置工事

従業員数：69人

■ 昨秋、名証2部上場を果たす

聞き手：御社の歴史と企業発展における転換期についてお聞かせください。

小栗社長：創業者の小栗 弥一は、近代造園の先駆者といわれた京都「植治」7代目小川 治兵衛のもとで作庭技術を磨き、1927(昭和2)年に岐阜に戻り、造園業「植弥」を創業しました。私は4代目で、おかげさまで今年創業90年を迎えます。昭和4年には、植治時代の経験を生かし、1882(明治15)年に開園した金華山公園を29歳という若さで総指揮を執り、現在の岐阜公園に改修しました。日本経済の高度成長に伴い、造園緑化工事も益々大型化し、岐阜大学(岐阜市)、東海道新幹線岐阜羽島駅前の緑道(羽島市)、岐阜メモリアルセンターの長良川競技場(岐阜市)、高速道路の緑化などを請け負いました。また、ゴルフ場では、中部圏のみならず、東京、千葉、長野、北陸地方に加え、関西でも大型プロジェクトに全力で挑戦してきました。

21世紀を迎えた頃から、地球温暖化やエコロジーなど環境問題が取りざたされるようになり、屋上や壁面緑化といった特殊緑化が脚光を浴びるようになりました。また、人と緑環境との心的な関わり方も重視されるようになり、大手流通グループの植樹祭やリゾート施設の工事が増加しました。2005(平成17)年には、エクステリア設計やデザイン施工を専門としていた関西最大手の榊景匠館を子会社化し、個人住宅などにおけるガーデンエクステリアにも事業を広げました。

聞き手：昨年11月には名古屋証券取引所市場第二部

(名証2部)に上場されましたね。

小栗社長：造園業界として初めての試みでした。建築工事に従属せざるを得ない造園業者を、持続的に発展させる一躍を担いたいという強い思いから、上場をその突破口と考えました。造園業とは、緑の力で「癒しや快適な空間」を提供すると同時に、住空間に「美しさや豪華さ、利便性や安全や安心」までも提供する事業です。それらは、人々の「健康増進や自己治癒力を活性化させる空間」であると同時に、地球環境の保全や復元にもつなげる地球規模の半永久的な事業でもあります。これだけの大きな提供価値を持つ造園業の知名度ならびに弊社の社会的信用度の向上が最重要課題であると痛感し、上場に挑戦しました。

■ ランドスケープ、ガーデンエクステリア事業を手がける

聞き手：事業内容についてお聞かせください。

小栗社長：造園緑化は対象とする物件により、ランドスケープとガーデンエクステリアの2つの事業に分けて行っています。ランドスケープ事業は、官公庁や民間企業から発注される不特定多数の人々が楽しむ造園緑化工事を、提案から施工、メンテナンスまで一貫して行っています。具体的には、庁舎などの施設、都市公園、街路、商業施設、リゾートホテル、学校、病院などです。ガーデンエクステリア事業部は、カーポートなどの既製品を組み合わせた典型的なもの

